

令和 6 年度事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日まで

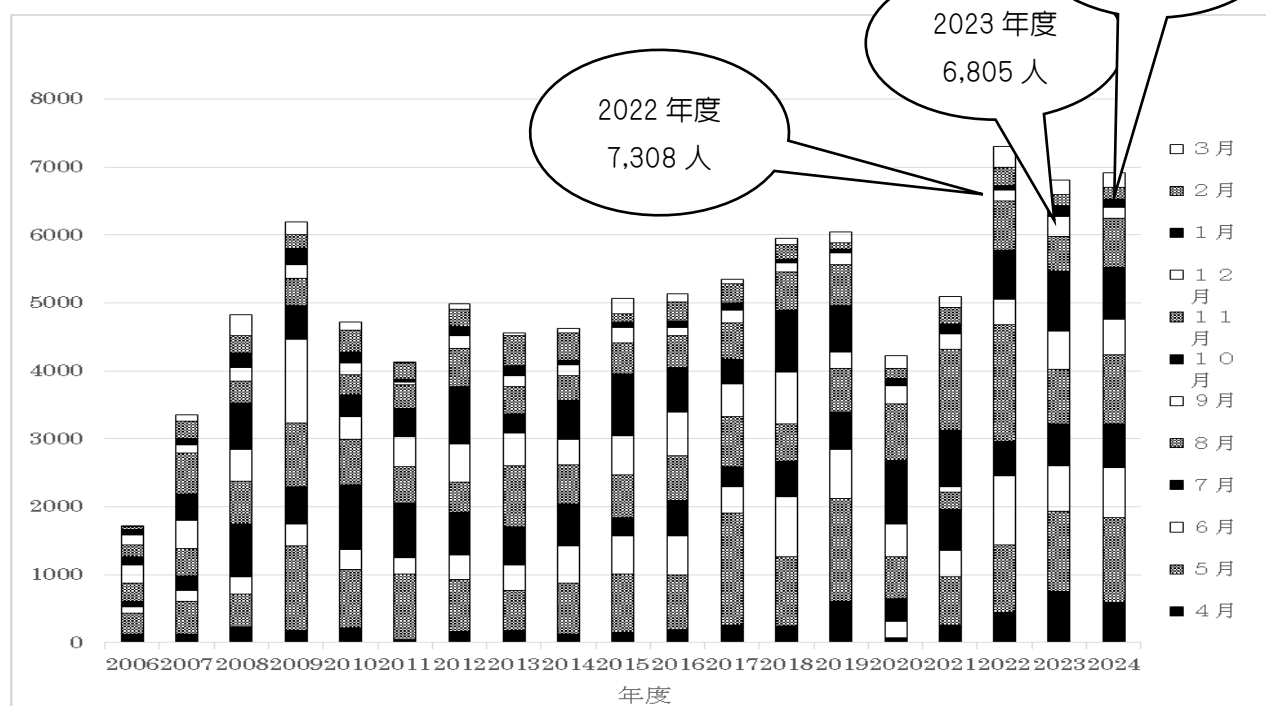
特定非営利活動法人 麻生里山センター

1. 総括

NPO 法人麻生里山センター（以下「センター」）が発足して 19 年目の令和 6 年度が終了した。今年度の年間利用者数は 6,920 人で、ボーイスカウト滋賀連盟の宿泊利用があった一昨年度（令和 4 年度）の 7,308 人には及ばなかったものの、昨年度（令和 5 年度）の 6,805 人を上回り、コロナ禍以降、堅調な回復傾向にあるとみている（図 1）。

詳細については、各章で記述する。

図 1: 森林公園くつきの森 利用者数推移
(2006 年度～2024 年度) 単位 人



2. 受け入れ事業の実施状況

(1) 利用者の動向

年間利用者数は 6,920 人で、全体では昨年度から 115 人の増加となった。個人、家族、小グループの一般利用者が大きく増加した一方、金蘭千里中学校をはじめとした学校団体、野外活動団体の利用と、里山整備ボランティアの参加人数が大きく減少した（表 1）。今年度は、大阪・関西万博や滋賀県での国スポ・障スポ大会の影響で大型バスの手配が困難な状況であり、特に 10 月ごろまでは人数の多い学校団体の利用は平年と大きく異なる可能性がある。個人・家族・グループ利用を期待したい。

月別では、5 月と 8 月にピークがあり、年度を通じては、春季から秋季にかけての利用が多く、冬季間 12 月～3 月にかけての利用は少ない（表 2）。積雪の多少に左右される時期だが、イベントの実施などで利用者が増やせる余地は大きい。

地域別では例年と同様、琵琶湖・淀川水系沿いの滋賀、大阪、京都の順で多く（表 3）、この 3 府県で全体の約 92%を占めている。

表 1: 利用者の属性等 (単位: 人)

2,096		利用内容など	2024	2023(参考)	増減	
一般（個人・グループ）		散策、自然観察など	2,096	1,814	282	
イベント	麻生さんぽ	主催行事	16	275	270	5
	森のいやし(和みのヨガ)		16			
	自然講座(野鳥観察) 5月		8			
	里の手しごと(シナノキ) 6月・9月		12			
	自然観察(土壌生物) 6月		13			
	自然講座(水生昆虫) 7月		23			
	自然観察(きのこ) 7月		7			
	みんなで水族館 8月		42			
	森の自然講座 8月		25			
	自然観察(きのこ) 10月		18			
	自然観察(木の実・野鳥) 11月		9			
	森さんぽ 11月		9			
	里の手しごと(リリース) 12月		4			
	やまのこ番外編 3月		24			
未来の森づくり 5月・6月・9月・10月・11月		49				
里山整備ボランティア		森林整備活動	16	50	-34	
企業	太陽生命保険	森づくり活動など	256	319	214	105
	滋賀県環境保全協会	研修	26			
	伊藤忠商事		20			
	大和ハウス工業	森林整備など	17			
幼稚園・こども園		里山あそびなど	930	849	81	
大学・研究機関	京都市立芸術大学	演習・調査など	84	194	225	-31
	龍谷大学		44			
	滋賀県立大学		28			
	コルゲート大学(米国)	散策	13			
	成安造形大学	撮影	5			
	東京大学	研究	2			
	京都大学		17			
小中学高校	琵琶湖環境科学研究センター	調査など	1	379	638	-259
	洛星中学校	森林体験学習	219			
	朽木東小学校	どんぐりプロジェクトなど	36			
	朽木中学校		40			
	慶応義塾横浜初等部	森林体験学習	39			
	関西創価高校		24			
野外活動団体	名古屋市立白山中学校	修学旅行	21	999	1,145	-146
	アサヒキャンプ	キャンプ	919			
	たかしま森林セラピー		77			
子育て・福祉	ボイスカウト	キャンプ下見	3	457	425	32
	たかしまおさんぽ会	里山あそび、散策など	216			
	自主保育ホトリ		13			
	雑創の森プレイスクール	フォーラム	24			
	びわこ森のようちえん		25			
	こっころすか	散策、自然観察、たき火	17			
	えくほ球技クラブ	キャンプ	69			
地域諸団体	きらきらクラブ	散策など	93	359	356	3
	高島市森林組合	調査など	22			
	高島市観光協会	団体エスコートなど	16			
	薪ネット	森林整備など	33			
	針畑活性化組合	納品	3			
	豊稔の郷	合宿(自然観察)	69			
	朽木野鳥を守る会	撮影(野鳥)	18			
	巨木と水源を守る会	チラシ配置	2			
	びわ湖トラスト	散策・クラフト(バードコール)	38			
	朽木すみまち協議会	キャンプなど	77			
	朽木学童	川遊び・クラフト	13			
	朽木公民館	ビザ・散策	24			
	レイカディア大学	自然観察	5			
	新旭フラワー・バトロール	ストロースター・ビザ	15			
	石川県林業研究グループ連絡協議会	研修	36			
	日台里山交流会議	散策	25			
やまのこ事業	市内14小学校(4年生)、引率教諭	環境学習	378	489	536	-47
	やまのこサポーター		111			
その他	行政関係	打ち合わせ、検査など	73	407	283	124
	ワイワイキッズ(高島市)	散策、川遊びなど	47			
	(株)山旅人	スノーシューレンタル	14			
	クアオルトウォーキング	体験会	7			
	AHN(アクティブラザ)	団体エスコート	6			
	ソラノネ食堂	薪購入	3			
	ゼログラビティ	下見	6			
	ロケ (ドラマ、音楽)	映画、音楽など	147			
	取材	テレビ、新聞など	5			
	修理業者など	保守点検、修繕など	73			
	麻生里山センター(総会など)		総会出席者など			
年度合計(人)			6,920	6,805	115	

第一位は滋賀県で 3901 人(約 56%)で、うち 2336 人(約 70%)は高島市内からの利用だった(表 4)。3 府県以外では、兵庫、愛知、福井、奈良などの近隣県および東京都、神奈川県からの来訪が多かった。海外からの利用者、いわゆるインバウンド客については、今年度はアメリカ合衆国から大学生(コルゲート大学)一行の来訪があったほか、そのほか 30 人程度が散策のため訪れてくれた。都市部や有名観光地でのオーバーツーリズムが深刻な問題となっており、国の観光政策は「地方分散」が重要視されており、インバウンド客も日本の地方への関心も高くなりつつある。高島市域へのインバウンド客の入込も個人やグループが乗用車を利用して入込するケースが増えている。当センターとしては、季節を通して情報を適切に発信し、インバウンド客を含むくつきの森を訪れるすべての人々を温かく出迎え受け入れることを通じて、さらなる利用率の向上につなげていく体制・施策が求められるだろう。

年代別では、大人、小中生、幼児の順で、小中学生の減少は団体利用の減少によるものと思われるため、全体的な傾向は以前の年度と変わっていないと思われる(表 4)。

日帰・宿泊別では、昨年度と比較すると、日帰りが 5,973 人から 5,947 人に微減(約-0.4%)したのに対し、宿泊客が 832 人から 973 人へと約 15%増えていた。

表2：月別利用者数推移 (単位: 人)

月	2022(参考)	2023*	2024*	増減*
4月	447	749	590	-159
5月	986	1188	1250	62
6月	1025	661	738	77
7月	513	625	642	17
8月	1711	805	1019	214
9月	369	551	516	-35
10月	732	889	772	-117
11月	714	510	717	207
12月	158	301	160	-141
1月	79	158	125	-33
2月	265	159	177	18
3月	309	209	214	5
合計	7308	6805	6920	115

表3: 利用者数類型 < 地域 > (単位: 人)

地域	2019	2020	2021	2022	2023*	2024*	増減*
滋賀県	2864	2696	3562	4897	3765	3901	136
大阪府	1527	837	882	1519	1443	1225	-218
京都府	570	503	496	668	1101	1212	111
東京都	400	22	23	36	88	109	21
兵庫県	17	48	59	22	123	104	-19
愛知県	10	31	19	28	67	68	1
福井県	13	17	10	37	46	64	18
奈良県	14	2	13	49	49	59	10
神奈川県				8	13	52	39
海外						47	47
石川県				1	3	40	37
岐阜県		7		8	8	8	0
山形県				1	2	8	6
三重県	2	9	14	12	59	6	-53
静岡県	6			2		6	6
埼玉県				1	3	4	1
広島県			2		5	3	-2
長野県	6	50				2	2
鳥取県						1	1
愛媛県						1	1
香川県				4	14		-14
富山県	2		1	1	7		-7
福島県					4		-4
宮城県					2		-2
徳島県					2		-2
鹿児島県				2	1		-1
沖縄県				5			0
千葉県		1		3			0
和歌山県				3			0
長崎県				1			0
栃木県			12				0
新潟県		1					0
岩手県	2						0
高知県	2						0
茨城県	1						0
合計	5436	4224	5093	7308	6805	6920	115

表4: 利用者数類型 < 滋賀県/年代/宿泊・日帰 > (単位: 人)

■滋賀県(高島市/その他)

	2019	2020	2021	2022	2023*	2024*	増減*
高島市	2062	1942	2243	2870	2526	2336	-190
市外	802	754	1319	2027	1084	1565	481
合計	2864	2696	3562	4897	3610	3901	291

■年代

	2019	2020	2021	2022	2023*	2024*	増減*
大人	3830	2731	3272	4680	4453	4609	156
小中生	1528	851	1015	1851	1604	1449	-155
幼児	684	642	806	777	748	862	114
合計	6042	4224	5093	7308	6805	6920	115

■宿泊・日帰

	2019	2020	2021	2022	2023*	2024*	増減*
日帰	5097	3680	4504	5699	5973	5947	-26
宿泊	945	544	589	1609	832	973	141
合計	6042	4224	5093	7308	6805	6920	115

(2) 団体などの利用

主な団体別の利用状況は表1のとおり。区分としては、アサヒキャンプを中心とする「野外活動団体」のほか、高島市内の「幼稚園」「こども園」、教育旅行を中心にした「小中高校」、実習や演習の場として利用する「大学」の皆さんに多く利用された。企業の利用は伊藤忠商事の新入社員研修と、大和ハウス工業の社員による森林整備作業をはじめとして、中小企業による宿泊研修の利用もあった。その他、小浜から京都まで鯖街道を踏破するテーマ演習「街道を歩く」での宿泊地として利用した京都市立芸術大学や、中世ヨーロッパの古楽器の演奏者の団体による利用もあった。



4月16日 伊藤忠商事



5月29日 慶應義塾 横浜初等部

表 5: 2024 年度の主催イベント(単位: 人)

開催日	イベント名	参加内容	内容等
5月12日	麻生さんぽ	16	地元在住のくつきの森スタッフと集落散歩
5月18日	森のいやし	9	和みのヨーガ (講師: 鎗分ゆかり氏)
11月4日		7	
5月19日	森の自然講座	8	自然観察～夏鳥～ (講師: 植田潤 氏)
6月8日		13	自然観察～土壌生物～ (講師: 上西 実氏)
7月6日		7	自然観察～きのこ夏～ (講師: 佐藤 博俊 氏)
7月27日		23	自然観察～水生昆虫～ (講師: 上西 実氏)
8月24日		25	自然観察～昆虫～ (講師: 西田 隆義 氏)
10月19日		18	自然観察～きのこ秋～ (講師: 佐藤 博俊 氏)
11月16日		9	自然観察～冬鳥・木の実～ (講師: 野間 直彦 氏)
5月25日	未来の森づくり	12	森林山村多面的機能発揮対策交付金(林野庁)助成事業4期目(3年間)の3年目。参加者を募り、南山地区の太陽生命協定林で実施
6月22日		14	
9月28日		9	
10月26日		9	
11月23日		5	
6月19日	里の手しごと シナノキ① シナノキ②	6	シナノキ① (採取、皮剥き、浸水)
9月4日		6	シナノキ② (繊維剥ぎ)
12月7日	里の手しごと	4	クリスマスリース作り
11月10日	森さんぽ	9	散策
8月4日	みんなで水族館	42	自然観察・水遊び
3月2日	やまのこ番外編	24	散策・クラフト他

開催: 10催事／計21回
延べ参加人数: 275人

(3) 主催イベント

実績は表5のとおり(10催事・21回)。延べ参加者は275人と、昨年度とほぼ同様だったと言える。新規のイベントは、大津市木戸で水族館を運営する「びわこベース」と開催した「みんなで水族館」。参加者が自ら川に入り捕らえた魚で即席の水族館を開設するもので、参加者には好評だった。また、「森の自然観察」シリーズでは参加者数が安定してきている。

(4) 太陽生命保険との協定に基づく事業

太陽生命保険との協定事業(琵琶湖高島森林づくりパートナー協定)は18年目(2007年11月～)、「どんぐりプロジェクト」は14年目(2011年～)になった。事業への協力状況については表6の通り。今年度からは、どんぐりプロジェクトの対象を中学生にまで広げた。くつきの森の南西部に広がる「太陽生命くつきの森林(もり)」は、2023年10月、国連の生物多様性目標「30by30」を達成するための「自然共生サイト」(環境省)に認定された。「30by30」とは「2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する」という国際合意。「自然共生サイト」は、国立公園など制度的に保護されている地域とは別に民間などが保全に取り組んでいる自然地を国(環境省)が認定する制度。太陽生命の協定林では、今後もアカマツ林再生地やビオトープなどでの取り組みを継続し、里山の変化などを記録するモニタリング調査を継続していく。



8月4日 みんなで水族館

表6: 2024年度の太陽生命保険関連事業

月日	内容	備考
4月25日	30by30調査(太陽生命の森林、ビオトープ)	
5月11日	恵み豊かな里山林づくり	181人参加
5月17日	30by30 調査(野鳥)	
6月25日	30by30 調査(アカマツ林)	
7月20日	ビオトープ整備作業	15人参加
7月25日	30by30 調査(野鳥)	
7月27日	30by30調査(ビオトープ; 上西実氏)	
8月16日	30by30 調査(野鳥)	
9月11日	30by30 調査(植生: No.1~3)	
9月21日	30by30 調査(野鳥・植生No.4)	
10月1日	植栽用苗木づくり(トチノキの播種)	
10月8日	植樹地 シカ柵ネット再構成	
10月19日	クアオルト活動	18人参加
10月23日	どんぐりプロジェクト中学生 森林整備作業、森林調査など	朽木中学校 22人参加(生徒14人)
10月24日	どんぐりプロジェクト3年生 ポット苗づくり	朽木東小学校 9人参加(児童4名)
10月25日	どんぐりプロジェクト4年生 ポット苗の植え替え。	朽木東小学校にて実施 14人参加(児童9人)
10月25日	どんぐりプロジェクト5年生 森林のはたらきについての学習	朽木東小学校にて実施 12人参加(児童7人)
11月20日	30by30 調査(野鳥)	
12月6日	どんぐりプロジェクト植樹式	12人参加(児童9人)
12月7日	アカマツ林整備作業	11人参加
12月8日	30by30 調査(野鳥)	
1月18日	30by30 調査(野鳥)	
3月9日	30by30 調査(野鳥)	
3月21日	30by30調査(植生No.5)	



ビオトープ整備



どんぐりプロジェクト 中学生

2024 年度 主催イベントから



5 月 12 日 麻生さんぽ



6 月 8 日 森の自然観察
～土壌生物～



5 月 18 日 森のいやし
～和みのヨーガ～



7 月 6 日 森の自然観察
～きのこ 夏～



5 月 19 日 森の自然観察～夏鳥～



6 月 19 日 里の手しごと
～シナノキ①～



7 月 27 日 森の自然観察
～水生昆虫～



8 月 24 日 森の自然観察
～昆虫～



9 月 4 日 里の手しごと
～シナノキ②～

2024 年度 主催イベントから



6月22日 未来の森づくり



9月28日 未来の森づくり



10月26日 未来の森づくり



11月10日 森さんぽ



11月4日 森のいやし
～和みのヨーガ／昼食（ピザ）～



11月16日 森の自然観察
～木の実 冬鳥～



10月19日 森の自然観察
～きのこ 秋～



12月7日 里の手しごと
～クリスマスリース～



3月2日 やまのこ番外編

3. 施設・機器類の管理

(1) 日常管理

くつきの森には、表 7 のような建物・設備・機器類がある。

やまね館を中心とする建物については、定期的に清掃をおこなうなど維持管理に努めたほか、各種法令に基づいた点検を実施している。

ホイローダなど森林管理のための重機類については、自主点検を含め、適切な管理に努めた。

(2) 修理・修繕など

建物および設備類は老朽化がすすみ、修繕が所が増えている。機器類についても故障などが何度か生じた。2024 年度には表 8 に示すような不具合等があり、確認や修繕等の対応を実施した。中庭の不等沈下など、いくつかの案件については、対応待ちとなっているが、現状では不具合やサービスの停止によりセンターの運営に直接的な支障をきたしているものはない。

(3) 専門業者への管理委託など

水道施設、浄化槽、消防設備などについては、専門業者に委託して表 9 のような定期点検・管理をおこなっている。

なお、水質汚濁防止法等に基づき、厨房冷蔵庫のフロン管理（目視による異常観察）などを定期的に実施し、記録している。

(4) 携帯電話サービスエリア

くつきの森の敷地内の大部分は NTT ドコモのサービスエリア圏外で、麻生集落に設置された基地局からの電波が届かない状況になっている。この地域に居住する住民がいないため、基地局増設などの要望が通らない状況だが、災害時に園内散策中の利用客に連絡が取れる手段は必須なので、今後も粘り強く交渉をしていく。

表 7 くつきの森の主な建物と設備、機器類

施設・機器類	用途	備考
やまね館	事務所、ホール、宿泊	ピザハウス 重機格納庫
森林環境研究所	トイレ、休憩、少人数の活動	木工所 倉庫 資材置き場 浄化槽（25 人槽）
ロッジ	トイレ、臨時施設、アサヒキャンプ活動	主としてアサヒキャンプなどが活動場所として利用
290 人浄化槽	污水处理	やまね館とロッジの排水処理
浄水場	水道	水源はアチラ谷；全施設へ上水を供給
ホイローダ	除雪など	市から提供
バックホー（コマツ）	森林管理	市から提供
バックホー（ヤンマー）	森林管理	NPO 保有
芝刈り機	広場の芝刈り	市から提供
軽ダンプトラック（新）	各種活動 森林管理	NPO 保有
軽ダンプトラック（旧）	各種活動 森林管理	NPO 保有

表 8 施設・機器類の主な不具合と修繕など

項目	場所・機器類	内容	備考
建物の修繕等	やまね館中庭	不等沈下	対策検討中(市)
設備の修繕等	浄化槽ブロー	3 台中 1 台故障	対策検討中(市)
	雨漏り	やまね館 厨房など	様子見中
機器類の修繕等	ボイラー	温度調節器不具合	交換済み
	複合機	ドラムユニット不調	交換済み
	コマツバックホー	自主点検	エンジンメンテ他
	ホイローダー	自主点検	
市による修繕等	やまね館屋根	瓦破損(2枚)	交換済み(市)
	やまね館ロビー	床板のめくれ	交換済み
	ろ過設備	採水弁不具合	交換済み
	浄化槽ブロー	稼働中に異音	交換済み

表 9 外部への委託管理および定期的な点検管理

項目	内容	場所	備考
業務委託	建物警備	やまね館 森林環境研究所	セコム
	消防施設管理	やまね館森林環境研究所 ロッジ	セコム
	浄化槽管理	290 人槽 25 人槽（研究所）	日映今津
	特殊建築物の定期調査	やまね館	一級建築士事務所ピース-Do （3 年に 1 度）
飲用水管理	次亜塩素酸ナトリウム 濃度管理	浄水場	定期的な濃度チェック 液の補充
	水質検査	やまね館蛇口の水	2025 年 5 月実施（高島市保健所）
その他	フロ管理	やまね館業務用冷蔵庫	月 1 回（目視）
		やまね館冷房装置 （稼働中止中）	
	食品衛生管理	厨房	提供食材のサンプル保管 定期的な清掃

4. 森林の管理事業

（1）里山整備ボランティア

冬期などを除く毎週木曜日を「作業日」とし、さまざまな森林管理作業を職員とともにこなった（表 10）。

今年度は、計 10 回、延べ 16 人の参加となり、昨年度より 34 人も減少した。くつきの森と持続的に関わってくれる人の確保のため、参加人数増に向けた実効性のある対策が必要である。

（2）林野庁「交付金」の活用

2013 年度（平成 25）から林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」を受けて森林整備を実施している。今年度はその 4 期目（3 年間）の 3 年目。

対象森林は、南山地区の 3.4 ㌥。作業路の整備・新設、スギの間伐、繁茂したアセビの除伐作業などをおこなった。多くは「未来の森づくり」イベントとして実施した。

（①5/25、②6/22、③9/28、④10/26、⑤11/23）

表 10 里山整備ボランティア 実績（単位：人）

月日	作業内容	参加人数
4月11日	森林作業準備	1
5月16日	丸太ベンチ製作	1
5月23日	ホトランド 杉搬出 残材整理	2
6月13日	森林整備作業	2
6月27日	森林整備作業	1
7月11日	薪づくり	1
7月18日	遊歩道整備	1
7月25日	遊歩道整備	2
9月5日	残材整理	1
9月19日	シカ柵整備	1
10月17日	ユリノキコース整備	1
3月14日	丸太ベンチ製作	1
3月21日	炭がま作業	1

延べ参加人数

16

（３）遊歩道等の管理

利用頻度の高いコースを優先して、巡視・点検、道標の補修、倒木処理、草刈り、落葉掃きなどの維持・管理作業を継続して実施している。斜面が崩れて通行出来なかった東山コースについては復旧工事を実施したが、谷を渡る一部の橋の掛け替えが必要になっている。北谷橋については増水のため橋板が流出していたため、橋板を再敷設してすべり止めのネットを取り付けた。

今年度は、北谷橋から南西のからみ谷沿いにあった道を整備して、やまのこ事業の子どもたちが利用出来るようにした。湿地帯を通る部分については、間伐したスギの幹を使った木道を設置した。

（４）中心エリアの整備

遊歩道とともに森林整備の重点地区としたのは、訪問者が頻繁に利用するやまね館周辺や馬背地区一帯。広場の定期的な芝刈り、枯れ木や残材の処理、繁茂したススキの刈り払いなど、景観や安全を考慮して整備作業を実施した。

全国植樹祭で植えたクヌギ林では、公益社団法人滋賀県環境保全協会の研修に参加した企業の方たちの協力で下草刈りを実施した。



北谷橋(再敷設後)



からみ谷沿い 遊歩道整備



湿地帯への木道設置



10月12日 滋賀県環境保全協会
全国植樹祭クヌギ植林地の草刈り



太陽生命の森林 遊歩道整備

（５）県道沿い伐採跡地の整備

県道沿いのスギ伐採跡地（高橋）の整備については、朝日の森時代に植えたラクウショウも活かした森になることを願って事業を進めている。昨年度設定した目標は下記の３点。

- ① くつきの森の入口部分としての景観整備と土地利用を図る
- ② 湿地を生かす
- ③ 水田跡の平らな地形や土手を生かす

５月と１１月の２回、大和ハウス工業の社員延べ１７人が参加し、伐採跡地の草刈りと遊歩道の整備を実施した。また、植栽した後に設置したネットの修繕作業をスタッフが実施した。



５月２２日 大和ハウス様
整備作業

表 11 クアオルト健康ウォーキング 実績（単位：人）

月日	内容	参加人数
５月２６日	体験会	７
１０月１９日	体験会 (太陽生命保険奈良支店)	１８

５．高島市クアオルト健康ウォーキング事業

今年度の事業は表 11 の通り。会計上、指定管理業務とは切り離れたセンターの自主事業として実施した。体験会の運営に当たっては、ガイドの岩井智子さんが主体となって進め、一般向け体験会を１回、企業社員向けとして太陽生命保険奈良支店社員の体験会を１回実施した。集客、運営のためのコストなど、継続するための課題が非常に重いのが現状である。

その他、２つの専用コース（ユリノキコース、オグラスコース）の整備作業を市の委託業務として実施した。



１０月１９日 太陽生命保険
奈良支社 体験会

６．広報・情報発信事業

イベントなど年間を通じての広報は、年度初めに発行する「イベント案内」を活用した。会員へ送付したほか、道の駅など市内外の主要施設への取り置き依頼、また日帰り利用者へ手渡すなど、森の利用促進を図った。

日常的な情報については、ホームページ、フェイスブック、ブログ、インスタグラムを活用



ユリノキコース 整備作業

し、野鳥や開花状況などの季節情報、イベント予告や報告など、さまざまな方法で情報発信に努めた。参加者の募集では、広報たかしまなども活用した。

ニュースレターは8月と1月の2回発行。センターの活動報告、フィールドについての情報などを発信した。報告や告知にとどまらず、スタッフの思いを文字で発信できる機会なので、発行頻度を春夏秋冬の季刊程度にまで上げて、利用者との交流に役立てられればと思う。

今年度も外部組織等が運営する事業やイベント等との連携を進めた(表 12)。出店先でのコミュニケーションを通じてできた新たなつながりを大切にして、くつきの森の関係人口を増やしていく。また、森林組合等、外部組織のイベントにくつきの森を利用してもらう機会も提供していきたい。

なお、今年度はGoogle Mapで「森林公園くつきの森」「やまね館」の検索結果で表示される位置情報の修正(6月)、検索結果のイメージ画像に、「コリノキ広場」が表示されるようにする修正(12月)を実施し、反映させている。

表 12 外部組織との連携等

対象		内容
びわこ高島観光協会 誘致推進部会	高島 (新旭)	教育団体を扱う旅行会社に高島市への誘致活動を行う 7/17 名古屋市内で誘致活動
高島市森林組合	高島 (朽木)	10/19 “Re-Woods”への出店
滋賀県木材協会	大津	10/26・27 “木育ワンダーパーク2024 in 大津”への出店
たかしま市民協働 交流センター	高島 (今津)	12/1 “たかしま市民活動フェスタ 2025”への出店
今津サンブリッジホテル	高島 (今津)	2/8・9 “地域の交流と町の文化祭”への出店
高島市働く女性の家	高島 (今津)	3/20 “ゆめばれっとひろば”への出店



10月19日 高島市森林組合 “Re-Woods” への出店



Google Map 上で表示される「森林公園くつきの森」

7. 次年度に向けて

指定管理4期目の最終年、5年目にあたる2025年度は、NPO法人麻生里山センターの開設20年目を迎える節目の年、かつ、次の指定管理団体選定を見据えた重要な年でもある。少子化、人口減少と地域の衰退、そして物価高と厳しさを増していく現状を踏まえ、これまで育ててきた行政や地域、そして太陽生命保険との関係性を維持・拡充し、より広く、深く、多様な協力関係を構築していく必要がある。くつきの森の過去を振り返り、関わってくれたすべての人々に敬意と感謝の意を示し、未来を展望する事業を進める。立っている場所、事業を営む場所は朽木・麻生だが、見据えている先を「くつきの森」から「たかしまの森」に広げ、高島市だけでなく隣接する大津市や長浜市、そして福井県や京都府など周辺も含めた自然環境の保全と地域の活性化に関わることが求められる。また、自立して持続可能な組織であるために、観光や物販を通じての地域経済への貢献も視野に入れていかなければならない。

施設・設備の老朽化はもはや避けられない中、よりコンパクトで持続可能な施設や設備の導入を検討し、「学びの森」として、自然の営みから誰もが「生きる」ことの価値を感じられる場として、その役割をしっかりと自覚し、将来世代に引き継いでいける環境をつくる。取り組むべき課題は山積している。

次年度は、これまでの20年間の歩みを、将来を切り拓く力に変えていく大切な一年になる。あらためてこれまでくつきの森と当センターに関わってくれたすべての人に心からの感謝の意を伝えるとともに、これからも引き続きご支援をお願いしたい。